

私の生活（二）

種田山頭火

青空文庫

御飯ができ、お汁ができて、そして薬缶を沸くようにしておいて、私は湯屋へ出かける。朝湯は今の私に与えられているゼイタクの一つである、私は悠々として、そして黙々として朝湯を享樂する（朝湯については別に扉の言葉として書く）。過現未一切の私が熱い湯の中に融けてしまう快さ、とだけ書いておく。

湯から帰ると、手製の郵便受函に投げ込まれてある郵便物を掴んで、いそいそと長火鉢の前にあぐらをかく、一つ一つ丹念に読む、読むでは微笑する、そして返事を認める、それを持つて角のポストまで行く、途中きつと尿する、そこは花畑だ、紅白紫黄とりどりの美しさである、帰つて来て、香ばしい茶をすする、考えるでもなく、考えないでもなく、自分が自分の自分であることを感じる。——この時ほど私は生きていることによるこびを覚えることはない、そして死なないでよかつたとしみじみ思う。

それから、朝食兼昼食がはじまるのであるが、もう余白がなくなつた。余白といえば、私の生活は余白的だ、厳密に言えば、それは埋草にも値しないらしい。

青空文庫情報

底本：「山頭火随筆集」講談社文芸文庫、講談社

2002（平成14）年7月10日第1刷発行

2007（平成19）年2月5日第9刷発行

初出：「三八九」第三集」

1931（昭和6）年3月30日発行

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2008年5月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

私の生活（二）

種田山頭火

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>